

知事会見(平成 30 年(2018 年)10 月 25 日(木曜日)16:10~16:40 飯田合同庁舎)

司会(南信州地域振興局 奥原 淳夫 副局長)

たいへんお待たせしました。「しあわせ信州移動知事室 南信州地域」の終わりに当たりまして、ただいまから知事会見を始めたいと思います。

この知事会見では、「しあわせ信州移動知事室」の質問のみとさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

長野県知事 阿部 守一

前の日程がおしたため当初の予定より約 10 分の遅れが出ましたこととお詫びいたします。

昨日、今日と 2 日間にわたって南信州地域で移動知事室を行わせていただきました。南信州地域の持っている潜在力や可能性を改めて認識させていただきました。

また、多くの県民の皆様と対話をさせていただく中で、私自身も様々な気付きをいただきまして、また多くの皆様方と長野県の進むべき方向性や課題についても共有することができたのではないかと考えております。

この移動知事室、これまで以上に頻繁に行っていきたいと考えております。この南信州地域、リニア・三遠南信時代を迎えようとしている中で、最も大きく変化をしていかなければならない、させていかなければいけない、そうした地域になりますので、三期目の第一弾として訪問させていただきました。これからも地域の市町村長の皆様、県民とお力を合わせて南信州地域の発展のために全力を尽くしていきたいと考えています。あと、皆様方からのご質問をいただきながら、お答えをしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

中日新聞 寺岡 葵氏

知事 2 日間お疲れ様でした。昨日、大鹿村でリニア中央新幹線の南アルプストンネルの工事現場や大鹿村村民の方とミーティングをされたと思いますが、リニアの関連で 2 点だけ質問させていただきたいと思っております。

この 11 月でリニア工事が県内工事の着工から 2 年を迎えると思うんですけども、昨日現場を視察したり村民の方とミーティングされた中でも話したと思うんですけど、観光面への影響とか残土をどうするかという問題が残っている中で 2 年を迎えたということに対する知事がどのように受け止められているかという点と、もう一点、今後も大鹿村などで工事が続くと思いますが、知事として JR 東海さんの方にどのようなことを求めていくおつもりか、その

2点についてお話をお聞かせいただければと思います。よろしく申し上げます。

長野県知事 阿部 守一

まず、受け止めということでもありますけれども、南アルプストンネルの起工式の際も、私も同席させていただきました。多くの県民の皆様が、この地域の発展の起爆剤として期待をしているリニア中央新幹線のことになりますから、工事の安全には、最大限留意いただきながらしっかりと事業進捗を図っていただきたいと思っています。

他方で、今お話がありましたように残土処理の問題、地域の皆様方の懸念をされている事項ということもたくさんありますので、私からは昨日申し上げましたけれども、JR東海の皆様にはぜひ地域の皆様方の理解・協力を得ながら話を進めていただきたいと思っております。これはJR東海の社長とお目にかかる際にも常に住民の皆様方の理解と協力無しに事業は進みませんよとお伝えしています。これからもそうしたことはことあるごとに申し上げていきたいと思っておりますし、JR東海には真摯に地元の皆様方の思いに寄り添って対応を進めてほしいと思っております。

南信州新聞 佐々木 崇雅氏

2点お伺いしたいんですが、まず1点目なんですけれども、昨日リニアフォーラム伊那谷自治体会議の方でリニアバレー構想の前進に向けて機動的な体制づくりをというお話のある中で、民間との連携、あともう一つは知事の方からはもっと世界や国全体へ目を向けた経済界への体制をとお話がありましたけれども、具体的にどんな体制だとか、2段階というようなお話を知事がしておりましたけれども、どんなイメージを今持っておられるのか。あと、もう1点なんですが、昨日のフォーラムでも出ましたし、先日の3県の知事による懇談でも出て、その兼ね合いでお伺いしたいのですが、昨日の伊那谷自治体会議の方では、広域的な観光推進について方向性はある程度DMO、2つの上伊那と南信州のDMOに委ねようという方向が出てました。一方この間の3県の知事の会話の中では事務局レベルで新しい研究会を作って広域観光の話題も取り上げていこうと知事の方から提案されていたように記憶していますが、そこら辺の連携とか兼ね合いを何かお考えであればお伺いしたいんですが。

長野県知事 阿部 守一

まずこれからリニアバレー構想を進めていく体制のあり方についてですけれども、これは昨日の伊那谷自治体会議の主要テーマでもあったんで、また伊那谷自治体会議のメンバーの皆さんともしっかりご相談をしながら固めていく

必要があるというふうに思っています。私のイメージで申し上げれば、一つは、地域の中で今まで市町村・県が中心に伊那谷自治体会議の中でリニア時代をどう迎えるかということを検討しているわけですが、昨日のご意見でも出ていたように地域の経済界の皆さんを含めて、もう少し大きな課題の体制を、地域の産業界の皆様方にもできればご参画いただく体制を作っていくことが重要だと思っておりますし、もう一つは、グローバルな視野をもってそして様々な、昨日もモビリティ革命、自動運転を始めとするモビリティ革命をテーマとしたフォーラムが開かれたわけでありましてけれども、技術革新も急速に進んでまいります。そういうことを考えると、そうした新しいテクノロジーをこのまちづくりに活かしていくという観点では、全国的な企業であったり、大学であったり、シンクタンクであったり、そうしたところとの連携ということも片方でやっていくことが必要だと思っておりますので、そういう意味では一つは地域の結束を高めていく上で、地元の経済界の皆さん方に入らせていただくような体制と、それから大学であったり、企業であったりそうした日本全体を視野に入れての連携のあり方、その両面をしっかりと考えていくことが重要だというふうに思っています。

それから2点目の観光の話ですけれども、伊那谷自治体会議で、上・下伊那のそれぞれ広域DMOを作る動きがある、そこを中心に検討していただく、そういう方向性を示させていただいておりますけれども、ご指摘のように伊那谷だけの広域観光だけでは収まらないテーマであると思っております。インバウンド、海外への情報発信であるとか誘客であったり、県が役割をしっかりと果たさなければいけないと思っておりますし、県内でも例えば木曽地域であったりあるいは岐阜だったり山梨県、両県でもリニア駅ができるわけでありまして、そうしたところの連携は、上伊那・下伊那DMOよりもっと広域の観点での取組ですから、その部分については県としてしっかりと役割を、これは県の観光機構との連携をしながら図っていく必要があると思っております。

長野放送 宮入 想氏

まず今日は、国の運輸安全委員会が昨年の防災ヘリ事故の調査報告書を公開しましたが、知事の受け止めと今後の安全運航について一言いただければと思うんですが。

長野県知事 阿部 守一

報告書が出たということは、私も承知しております。私とすれば改めて亡くなられた隊員のご冥福を心からお祈りします。われわれ、今まで安全対策を、事故を踏まえて強化してきたわけではありますけれども、今回の報告書を踏まえ

ながら、さらに安全な運航に努めていきたいと思っています。

信濃毎日新聞 鈴木 宏高氏

伊那谷自治体会議での話で、二次交通として新しいモビリティということで、自動運転という話が出てきているが、率直に知事とするとどんな県の関わり方があるのか、どういう取組になるのか教えてください。

長野県知事 阿部 守一

今、様々な企業が自動運転の実用化に向けて取り組んでいらっしゃいます。伊那市でも実証実験が行われているわけですが、県としてもそうした企業であったり、国レベルの取組に協力していくことは一つ重要だと思っています。それから昨日も話が出ていましたけれども、モビリティ、交通体系のあり方が大きく変わっていくわけです。そもそもリニア中央新幹線自体が、これまでの鉄道の概念を変えていくものでありますし、それに加えて自動運転も実用化されてくるとまちづくりのあり方自体も変わっていかざるを得ないと思いますので、飯田市、周辺の町村と一緒にこの未来思考のまちづくりを県も一緒になって進めていくことが重要だと思います。

信濃毎日新聞 鈴木 宏高氏

かぶちゃん農園について、ケフィアの関連会社がたくさんあってこの地域にもいろいろな影響が出ているということで、特に深刻だと私が思うのは、柿が収穫できない状態であるところがかなり広範囲にあるということで、事業が止まってしまったので、深刻な状態としてある。

それと、市田柿へのブランドイメージへの非常なダメージが懸念されるわけですが、考えをお聞かせ願えれば。

長野県知事 阿部 守一

われわれとしては、地域への影響は最小限となるように、取り組んでいくことが重要だと思っています。一つは働いていた方への再就職を含めてしっかりサポートをしていくことが重要だと思っていますし、また、お話ありましたように市田柿、これは地域の重要なブランドでありますから、これは関係の皆様と一緒に守っていく努力をしなければいけない。かぶちゃん農園が使用していた農地の今後のあり方ということも一緒に考えていかなければいけないと思っていますので、私どもとすれば、この南信州地域への影響が最小限とするように関係部局をあげて取り組んでいきたいと思っています。

フリーランス 金丸 宗氏

昨日、大鹿村にいらっしゃったのですけれども、大鹿村を訪問先として選んだ理由として、村の方々から聞いたことから推測するに、知事が大鹿村を心配していらっしゃるのではないのかということ、また、リニアが通った時に観光として大鹿村が成り立つために、少し、なんて言ったらいいのでしょうか、元気を入れる、モチベーションを作ってもらう意図を持っていらっしゃったんじゃないのか、その2つがあるのではないかと思いましたが、その辺はいかがだったかということと、もし心配であったのであれば、お話しした感じはいかがだったでしょうか。

それから、観光ということで大鹿村が頑張ればいいねということがあったとすると、実はリニアを利用するような方と、大鹿のしみじみした雰囲気と若干ちょっとずれがあるような気がします。そういったところで、リニアを使ってきた人たちに、大鹿を訪れていただくのにどんなハードルや工夫が考えられるのか、などのことをお聞かせ願いたい。

長野県知事 阿部 守一

まず1点目の話ですけれども、南信州全体、リニア中央新幹線の工事であったり、利活用であったり、大きく影響を受ける地域です。私としてはプラスの影響はより大きく、マイナスの影響はより小さくということが基本だと思っています。お話がありましたようにまさに大鹿村は、工事が行われて残土が出てくる場所でもありますし、また、地域の中にも懸念されている方が大勢いらっしゃる場所でもありますので、そういう意味で村の皆様方の感覚をお伺いしたいということで、今回は観光がテーマでしたので観光関係者の方を中心に意見交換をさせていただきました。いろいろ懸念はありますが、昨日も特に残土処理が本格化する、まだ本格化する前の段階ではありますが、本格化する時期への懸念の声観光関係者の皆様にはおありのようでありましたので、そこについては問題意識を共有して取り組んでいきたいと思っております。

あと大鹿村の観光のあり方ですけれども、私は昨日もお話ししましたが、たぶん大鹿村の観光というのは、1人でも多く来ればいいということではないと思います。そうした意味では、大鹿歌舞伎をはじめとして、ジオパークであったり地域固有の強みを持っているところでもありますので、そうしたものを大切にしながら、私としてはコアな大鹿村の理解者・応援者・ファンそうした人たちを増やしていくことが、結果的に観光の振興にはつながると思います。そういった意味で昨日の意見交換の中では、私からはそうした観点からのお話をさせていただきましたが、大鹿村のこれからの観光のあり方については引き続き、村の観光関係者の皆様方と大鹿村の皆様方と一緒に考えてい

きたいと思っています。

フリーランス 金丸 宗氏

大鹿村に絡めてお話ししましたが、伊那谷の穏やかな雰囲気を見に来る人達がリニアを正直使うだろうか気になったりするのですけれど、それに対してハードルがあると受け止めていらっしゃるのか、それを乗り越えていきたいと心構えされていらっしゃるのか、そのことはいかがでしょうか。

長野県知事 阿部 守一

今のご質問としては、リニアと南信州の観光のあり方が若干ミスマッチではないかという趣旨かと思いますが、例えば自然豊かな海外の観光地に行く時もわれわれ、飛行機に乗って行ったり、そこに行くまでは文明の利器を活用しながら到達して、そこから先は自然どっぷりという観光を一般的にはしていると思っています。ですので、そういう意味では、ご指摘のとおりミスマッチを感じる方が皆無かとは思わないですけれども、やはり移動手段の話と南信州地域であったり、大鹿村であったり、観光をどうするかというのは、少し次元が違うのではないかと私自身は思っていますけれど。

飯田CATV 清水 千晶氏

率直に2日間、飯田・下伊那の方を訪ねられて、生の声でお伺いされたと思いますが、印象に残ったことは何でしょうか。また、これから県政への反映についてはどうお考えでしょうか。

長野県知事 阿部 守一

そうですね、いずれも印象深いことばかりですので、挙げ出すと切りがないですけれども、最初に、松川町の「いちごサロン」については、シニア大学出身、また在籍されているシニアの皆さんが意欲的に取り組まれていたり、私としては、ボランティア的な活動も型にはめるのではなくて、参加される人たちが自分たちで工夫をしながら取り組んでいかれる重要性、またそのことによってモチベーションが上がることにつながるということを認識させていただきました。

それから、喬木村の喬木第一小学校と喬木第二小学校を結んでの合同の授業を拝見しましたが、デジタル革命の時代における教育の一つのあり方ということで私自身が非常に印象に残っていますし、何より小学校の子どもたちの元気の良さ、「5つの考え」分からないことはすぐ質問しようということを、われわれ大人になっても同じだと、私自身の印象には残っています。

それから、南信州地域・伊那谷自治体会議を始めとしてリニア・三遠南信自動車道の現場を拝見させていただいたり、いろいろなディスカッションに加わらせていただいたわけでありますけれど、飯田・下伊那地域の未来のあり方というものに対して改めて思いを馳せる機会になりました。

その中で、飯田工業高校跡地の航空機システムの拠点も拝見しましたがけれども、やはりこの地域の産業の核となる場所として、しっかり県でも育てていかなければいけないと思っています。そのほか挙げると切りがありませんけれど、冒頭にも申し上げましたけれど、南信州地域の可能性と潜在力に富んでいる地域であるということ。地域の皆さんには、ぜひ力を合わせていただいて県もしっかりサポートしますので、未来に向けて今こそしっかりしたビジョンを持って取り組んでいただきたいなと改めて実感した2日間でした。

私自身もいろいろな気づきがありましたので、県政にもいただいた意見、多くのことを反映することができるのではないかと考えています。

信濃毎日新聞 鈴木 宏高氏

防災ヘリの事故調査報告書についてどのようにお考えかお聞きしたい。

長野県知事 阿部 守一

それは、ここではお答えはできません。それは危機管理部の方で対応しておりますので。

毎日新聞 大澤 孝二氏

今回、大鹿村のリニアの現場を知事は視察されたのですが、今までコースの中で唯一その現場だけが報道陣はシャットアウトの状態で見られたのですがけれども、JR東海さんにもお話をお伺いしたのですがけれども、報道陣が殺到しても安全性が確保できないなどいろいろ理由はおっしゃっていたのですがけれども、私個人としては、リニアの現場を知事が視察されるということは、メインのイベントだったのではないかと思うのですがけれども。

そこで、県とJR東海さんの関係とか、JR東海さんの姿勢について疑念がわいたのですがけれども、もしJR東海さんの意向であるということならこの話はいいのですがけれども、もし知事、県としてお考えがあればお聞かせ願いたい。

長野県知事 阿部 守一

私はどういう経過かわからないのでちょっと。わかる人がいたら。

南信州地域振興局 奥原 淳夫 副局長

トンネル非常口の取材につきましては、ＪＲ東海さんの意向で取材をお断りしたという経過がございます。

毎日新聞 大澤 孝二氏

理由については、何か説明はあったのでしょうか。

リニア整備推進事務所 小牧 伸夫 企画幹兼次長

今回の知事の視察をＪＲ東海さんをお願いする中で、特に理由はお聞きしておりませんが、ＪＲ東海さんの意向で関係者だけ入場してくださいということでしたのでそのとおりにさせていただきました。

毎日新聞 大澤 孝二氏

ＪＲ東海さんに、その後確認させてもらったが、安全性が確保できない、だとするとそういう現場で仕事をされているのですかという話になると思うのですけれど、報道陣もある程度整然と対応するつもりではいるので、安全性が確保できないというのは理由にならないと思うのですけれども。もう少し開かれた現場をわれわれも拝見したかったなというのが本音なんですけれども、いかがですか。

長野県知事 阿部 守一

私はよく分かっていないんですけれども、リニア中央新幹線の工事現場は、全然、今まで見れてないのですか。

毎日新聞 大澤 孝二氏

掘削開始の時に、報道陣に公開されてヤードの外から撮影という形で、それ以来公開されていないので、ＪＲ東海さんは私有地として一切の立ち入りを禁じるということで、撮影できていないと思うのですけれども。

長野県知事 阿部 守一

いろいろな工区があると思いますが。

毎日新聞 大澤 孝二氏

今回視察した小渋川です。

長野県知事 阿部 守一

他はどうなんでしょうか。

毎日新聞 大澤 孝二氏

他も公開されていないことが多かったものですから、反対側の斜面で危険な思いをしながら撮影をしていました。

長野県知事 阿部 守一

J R東海の考え方は直接聞いていないし、今の話だと理由は確認していないみたいなので、あまり断定的には申し上げづらいところがありますけれども、私もおっしゃることと同じ思いです。もちろん安全性の確保はしっかりしていただく必要はあると思いますけれども、それ前提でもう少しオープンにしていく方が先程申し上げたように住民の皆さんの理解と協力を得ながらやってくださいねと私も申し上げてきたんですけれども、その方が理解を得やすいのではないかと私は思います。J R東海の皆さんがどういう感覚なのか私は確認していないので、そのことはどこかの機会で私の方から確認して、どういう考え方なのか聞いてみたいと思います。

フリーランス 金丸 宗氏

J Rの方と、今の話も関係あるのですが、昨日お話をされたと思います。ちなみに山梨県はトンネルの中まで記者を入れて取材をさせています。本坑だったかは定かではありませんがさせています。確かに早川町でさせています。

J R東海の方たちは大鹿村ではうまくやれているという把握をしているのか。というのは、大鹿村の住民の全村集会などを見ても、すごく配慮している部分もあるのですが、残土のことも30年までは、面倒見るのだけれども後のことは知りませんよというのは絶対に変えないとか。それから土日の工事、日曜日はお休みにしていますけれども、土曜日は全部と言わず、工夫はするけれども全部は難しいというところなどどうしても頑なというか、揺るがないところがあります。そこら辺を心配している村の人もなくはない。J R東海としては村の人たちとは全然、すごくうまくいっているということになっているのでしょうか。

長野県知事 阿部 守一

改めて私から、村の人たちとはどうですかねという確認はしていないので正確にご返事申し上げるには難しいわけですが、J R東海の皆さんに

は理解と協力を得ながらと申し上げているのは、課題があるから申し上げたわけで、JR東海の皆さんも課題を一つ一つ乗り越えていかなければいけないという認識は持ってらっしゃると思います。